しあわせ信州移動知事室〔木曽地域〕
４　（拡大版地域戦略会議）
結果概要

所属名　木曽地域振興局

日　　時	令和４年５月19日（木）15：40～17：40
場　　所	長野県木曽合同庁舎　講堂
出　席　者	上松町長、南木曽町長、木曽町長、木祖村長、王滝村長、大桑村長 大畑県議会議員、木曽広域連合事務局長 阿部知事、企画振興部長、総合政策課長、地域振興課長、市町村課長、 木曽地域振興局長、木曽保健福祉事務所長、木曽建設事務所長、上松技術専門校長、林業大学校長、蘇南高等学校長、木曽青峰高等学校長、木曽養護学校長、中信労政事務所長、中信教育事務所長、木曽警察署長、木曽地域振興局副局長、木曽保健福祉事務所副所長、木曽建設事務所次長、木曽地域振興局各課長、 木曽農業農村支援センター所長、
発言要旨	〔開会〕（兵藤副局長） 〔あいさつ〕阿部知事 〔説明〕次期総合５か年計画の策定について（総合政策課長） 〔説明〕木曽地域計画について（企画振興課長） 〔意見交換〕 【神事局長】 ・では、町村長の皆様から意見をいただきたい。 ・木曽地域の次の５年を考える中で、各町村長の皆様が１番重視される施策について、まずご発言をお願いしたい。 ・始めに、木曽広域連合の連合長である木曽町の原町長さんからお願いしたい。 【原木曽町長】 ・森林整備の関係の話をさせていただきたい。 ・木曽町には昭和30年代に植えたカラマツが非常に多い。今後それをどう活かしていくのかが大きな課題と認識。 ・山の所有者も世代交代する中で、自分の山の状況を把握していない人が増えてきているため、山林所有者の意識を高める必要がある。 ・木曽の山林は間伐が遅れ気味で非常に細い状況。木曽の場合も組織であったり、体制であったり、システムであったりそういったものを、今から準備する必要があると思う。 ・私からいくつかお願いしたい。 ①木曽町では「100年の森構想」という指針を定めていきたいと思っている。県からも、連携して支援をお願いしたい。

	②森林づくり県民税の活用について森林整備だけでなく、防災減災の観点からも、継続をお願いしたい。 ③森林の担い手の確保をどう図っていくかが重要な課題。林業従事者も年々減少している。林業大学校、木曽青峰高校森林環境課のグレードアップをお願いしたい。 ④森林環境譲与税について町村は林業に精通した職員が少ないこともあり、県からの支援、アドバイスをいただきたい。 ⑤森林支援の利活用を促進するための支援を強化していただきたい。 【神事局長】 ・木曽町長からは森林整備についてということで、今町で策定を進められている「100 年の森構想」関係、森林づくり県民税関係、森林管理制度関係、林大グレードアップ関係、森林資源利活用関係の話があった。森林整備の関係で他の町村長さん、何かご発言はあるか。 【越原王滝村長】 ・森林整備は若干得意分野であるので少し話させてもらう。 ・今年から搬出間伐ということで利用されるようにしているが、財源の確保ということで試験的に、下流域の市町村と森林の CO2 の削減効果を売買するということを検討している。 ・大きくなって利用できるものも多いので、どんどん進めていきたい。 ・木曽の場合、加工して高く付加価値を上げて輸出できればと考えている。 【神事局長】 ・ありがとうございました。他の町村長さんいかがか。 ・森林整備は、木曽地域は大変重要なテーマである。本日オブザーバーで大畑県議さんにお越しいただいているが、何かあるか。 【大畑県議】 ・１期生４年目であるが、木材に関しての質問は私が１番多いと思う。 ・人口減少、少子高齢化、出生率が非常に厳しい状況の中で、木曽谷については、１番の強みである森林を活かした施策を構築していかなければ、持続可能な町村がもつのかどうかというところにあると思う。 ・森林整備は当然十分やらなければいけないが、林業について、子供たちのために産業づくりを早めに構築していくということが、次の地域計画の中では１番重要な点だと思う。 ・その中で、王滝村長もおっしゃっていた、ネックになっている木材加工業、製材業を早く構築して、十分な流通に耐えられるようなサプライチェーン化を目指していくべきだと思う。 ・そして、脱炭素社会を目指した、子供たちに夢のある林業産業を構築していくことを、次の５か年計画の中で落とし込んでいただければと思う。

	【神事局長】 ・ありがとうございます。 ・森林管理制度については、木曽地域では広域連合に推進室を設置していただき、木曽地域全体について地域振興局でも一緒にやらせていただいている。その辺の話を、広域連合の外戸事務局長さんにお願いしたい。 【外戸木曽広域連合事務局長】 ・平成31年４月に森林管理制度がスタートした。町村単独でやるよりは連携を図っていくということで、令和２年４月から森林整備推進室を新設し３年目を迎えている。 ・当初発足した職員に、町村からの派遣職員、県の職員をいただいた。 ・業務の実績だが、木曽全体の県有林55,342haのうち管理制度を使用しての試算では、4,522haということを指標目標として掲げて現在業務を進めているところである。 ・県のホームページにも、指定管理権の集積計画は県全体で４月時点499haと出ていたが、木曽郡では486haということで、現在は順調に事業をやらせていただいている。 ・先程木曽町長からも話があったが、木曽の山は急峻なため、今後計画が難しくなってくるのではないかということで、確保、所有者の理解という業務が出てくる。 ・スタートしたばかりだが、そんな課題を木曽は抱えているのではないかと思う。 ・管理をしてくには、国、県の制度、補助が必要になってくる。木曽の中でどのように対応していくか課題であると考えている。 【神事局長】 ・ありがとうございました。 ・今いただいたご意見で、制度的な部分については地域振興局だけではどうこうできないので、ご意見として伺い、県庁の関連部局とも話をしていきたい。 ・地域の課題については、協議会の皆様と、林業木材産業の高付加価値化に向けてロードマップを策定し進めさせていただいているところである。町村の皆様と一緒に取組をさせていただきたいと思う。 ・知事、何かあるか。 【阿部知事】 ・林業については、先程関係者の皆様と意見交換をさせていただいた。木曽地域にとっての最重要課題であり、県として引き続き対応していく。 ・意見交換の中でも、人材の話が重要なポイントであり、かつ、課題だと思っている。 ・林業大学校があり、木曽青峰高校があり、上松技術専門校があるので、全体のパッケージを県が示すべきではないかと思っている。 ・林務部がやるのか振興局がやるのかわからないが、課題として認識している。前回も同じことを言っていて、ちょっとずつは進んでいるがあまり抜本

	的に進んでいない感じがする。 ・ぜひ、総合計画の中でもちゃんと位置付けるなどしてほしい。 ・これからの総合計画のあり方は、複合的な解決が必要ではないか。 ・木曽には森林が多く、伝統文化、美しい街並みがある。木曽は私自身も癒される。そう感じる人たちが多い地域だが、先程のデータでも長野県の中で最も人口が減っている地域ということで、アプローチを変えなければいけないのではないかと思っている。 ・昨日銀座 NAGANO へ行って東京周辺の 20 代、30 代の人達と意見交換してきた。 ・辰野町を拠点とした地域おこし協力隊の人たちがネットワークを作ったのだが、なぜ辰野町がいいのか聞くと、対等に扱ってくれると。初めて来た場所とは思えない、普通に接してもらえて、対等に扱ってもらえてしかも温かいと言っていた。 ・それは、当たり前と言えば当たり前の話なのだが、そういう雰囲気は、木曽は作らなくてもあると思う。 ・若い人たちの感覚も相当変わってきている。課題がたくさんあるので、挑戦できるとのこと。 ・先程医療関係者と意見交換したが、課題だらけである。若くて意欲のある人にとっては、そういう課題を「お前も一緒に考えてくれ」と言うと、すごくポジティブに反応してくれる人たちがいる。 ・人口減少で、若者をどう定着させるか、産業人材の担い手をどう確保するか、地域課題をどうやって解決するか、ぶつ切りに書いておくのではなく、ヘッドピンの施策のところに集中的に入れて、そこから派生していろいろな施策を解決していく形をとらないと、林業は林業、移住は移住、観光は観光としても、最善の解決にはならないというのが私の考えである。 ・今の林業人材の話も、例えば県も人材育成機関を集積しているので、県が全国的に募集をかけていくことが重要だと思うし、そこを出た人たちに定着してもらうために、市町村の皆さんに住みやすい雰囲気や環境を作っていただくということも大事だと思う。 ・循環するようなトータルなシステムを作るという観点で我々も考えるし、地域振興局も、今の地域計画の課題はぶつ切りだと思うので、もう少し違う角度からトータルに考えてはどうかと思っている。 ・森林林業の話はしっかり受け止めたい。 【神事局長】 ・３校の連携については、局と３校の連携推進会議を設置したので、そこで話をしながら進めていきたい。 【阿部知事】 ・そう。がんがん進めてくれる？ 【神事局長】 ・分かりました。

	・森林整備の関係は以上とさせていただく。 ・次に町村会会長、大桑村の貴舟村長さん、ご発言お願いします。 【貴舟大桑村長】 ・大桑村新庁舎の竣工式には、知事から祝辞をいただきお礼を申し上げる。おかげさまで、５月６日から業務を始めている。 ・太陽光パネルについては、知事に大変心配していただいて、今後も村としては、自然を守りたいということで、県の力をお借りしながら開発を断念させたいということで動いてまいりたい。 ・私からは、少子化と若年層の流出課題ということで、これは大桑だけの問題でなく、木曽郡、また日本中の問題かと思うが、話をさせていただく。 ・大桑村では、年間の出生が、約20人前後ということで、高齢化も43%だが、うちは高齢化はやむを得ないと思っている。それより出生数をなんとか増やしていきたいと思っている。 ・そういう思いで、子育て支援等いろいろな施策を行っているが、思ったようにはうまくいかない。大変つらい思いをしている。 ・大桑村には、IHIターボという500数十人の規模の会社がある。この会社がもし、大桑村から引き揚げられてしまったとき、村をどう立て直していくか、どういった施策でいくか思い浮かばず、不安である。 ・従業員の確保が難しく、人材確保のためには、生産年齢人口を村内だけでなく、近隣町村でも確保しなければならないということで、悩んでいる。 ・出生数が少ないので、この子供たちを何人くらい地元に留めることができるのか、あるいは、帰ってきていただくことができるのかといことが大きな課題となっている。 ・学校へ行き、子供たちと懇談する中で、子供たちから、村づくりのいろいろな知恵をもらっているが、常に「ふるさとへは絶対帰ってきてくださいよ。一旦は出ても、ぜひ帰ってきてください」と子供たちには言うが、逆に親は、「子供たちの好きなように生きなさい。こっちのことはいい」との考えである。 ・昔と家族構成が随分違うので、子供たちの好きなようにと言うと、結局残るのは年寄りのみとなってしまう。これは行政が関わっていかなければならない。 ・家庭の中でも、「俺たちの面倒はお前がみるんだよ」というくらいの教育も大事かなと思っている。 ・私どもも、小中学校卒業時には、ふるさとへ戻ってきてほしいと言うが、本日は、木曽の高校の校長先生お二人見えているので、ぜひ高校の生徒にも一旦は出ても、ぜひふるさとへ帰るように教えていただきたい。 ・ただ、親は、教育の充実となると、上を目指す子はなかなか帰ってきてくれない。特に女性はまず、帰って来てくれることはない。男性も女性も、ふるさとを大事にというような教育をぜひ先生方にお願いしたい。 ・木曽はこのままだとどんどん寂れていってしまうけれども、大桑村にも５名の地域おこし協力隊の方が活動していただいている。それぞれ目的を持って、大桑のために頑張っていただいている。

	・外から見た村は、自分たちは知らなかったが魅力的なんだなと教えられたことがある。 ・私たちも自信を持って、木曽郡の町村がそれぞれの特色を活かしながら発信してもよいのかなと思う。木曽の人間は、どちらかというと、内弁慶でおとなしくて、あまりでしゃばらないという感じがして、もう少し外へ発信してもいいのでは、という思いを、逆に地域おこし協力隊の方たちから教えてもらった気がする。 ・これからも、教育関係者の皆さん、家庭内の皆さんと連携しながら、村の存続に向けて頑張ってまいりたいと思っている。 ・大変難しい課題であり、何か解決策があるかというとないわけで、難しいなと思いながら発言させていただいた。 【神事局長】 ・ありがとうございます。 ・少子化、若者の流出対策ということでお話いただいたが、この関係で他の町村長さんご発言あるか。 【向井南木曽町長】 ・子どもの数が減ってしまっているということで、どの町村も子育て支援など対策を一生懸命行っているところである。南木曽町でも行っているが、子育て世代のお父さんお母さんに聞くと「ありがたい。満足している」という回答は返って来るが、結果としてそのことで子供が増えるというところまではつながっていかない。 ・もう１つ大事だと思うのは、全体的にみると、晩婚化、未婚化が進んでいるが、結婚している家庭では子供２人以上いることが多い。もう少し結婚するというところの対策を考えていかなければいけないと思う。 ・各村や町だけでなく、若い人が、家庭を持つことが自分の人生の幸せにつながるのだとか、信州で暮らしていくには家庭が必要だなど大きなところでとらえて、全体的で考えていく必要があるのではないかと思う。 【神事局長】 ・ありがとうございます。他にご発言はあるか。 ・先程の、若者の流出対策、若者に地元に残ってもらうという観点で、本日高等学校の校長先生お二人お見えいただいている。何かご発言はあるか。 【栗山木曽青峰高等学校長】 ・本校も、木曽郡内からかなりの数の生徒に来てもらっている。 ・大桑村からも 30 数名、全校の 10 分の１くらいは来てもらっている。 ・本校は４科あり、進路についてもそれぞれ随分違う。理数科はほとんど県外へ出てしまい、その後も長野県内にはほどんど戻ってきていないのが実情。 ・ただ森林環境科は、就職もあるし、林業大学校にもここ何年もお世話になっている。そういう生徒には、地元に残るような指導も行っているので、なんとか３校連携、あるいは企業と連携して、ぜひ木曽郡に留まっていただける

	ように、ここで就職して、ここで生活してもらえるように、引き続き努力してまいりたい。 【小川蘇南高等学校長】 ・蘇南高校の卒業生をみてみると、就職時に中津川方面に出て行ってしまう生徒が多かった。それをなんとか食い止めたいと思い、生徒が入学して卒業するまで３年間のキャリア教育と環境学習を、「ふるさと探究学」と銘打って自分の人生を考えながら、地域課題に地域の人たちと一緒に考えて行くという学びをやっている。 ・その過程の中で、外から移住してきた 30 代 40 代の、新しい日本をここで作ろうという方々となるべく交流して、またこの地域に最初から留まっている方々とも交流して、これからの生き方を考えさせている。 ・今年うれしかったのは、現在中津川から来ている生徒が４割いるが、中津川の方から南木曽に就職してくれた生徒がいた。そういう生徒が、これから増えてくればいいなあと思っている。 【神事局長】 ・ありがとうございました。 ・結婚支援の関係は、木曽の場合は、木曽広域自立連携ビジョンを作っており、木曽全体で結婚支援に取り組んでおり、第２期のビジョンでもその検討を始めているところである。 ・その辺の話を広域連携推進幹から。 【川村広域連携推進幹】 ・広域連携という形で、町村毎に結婚支援をしているところもあるが、点ではなく、面的に結婚支援をするということで、広域連合で今年度からリニューアルして実施している。 ・今までは、中京方面をターゲットにしていたものを、県内の、上伊那、下伊那など木曽のことを知っている方と交流できるきっかけを作っていこうということで取り組んでく予定としている。 ・いろいろな機会を通じて知り合って結婚していく形になるよう引き続き取り組んでいく予定としている。 【阿部知事】 ・高校の校長先生がいらっしゃるので、ちょっと質問だが、信州学とライフデザイン教育というのは高校ではどれくらい重点的に行われているのか。校長先生から見て、十分行われているのか、まだ足りないなという感じなのか教えてほしい。 【栗山木曽青峰高等学校長】 ・信州学については探究的な学びの中でやっている。専門科は地域と密着して上松の地域おこし協力隊の方に中に入ってやってもらったり、木曽町の人に入ってもらったりしている。伝統産業は、ねずこ下駄やろくろ細工などもや

	っているが、科が４つあるため、科によってばらついた感じもしている。 ・理数科などは、進学の方に重点が置かれているため、探究についてはもう少しやっていくべきかなと思っている。 ・ライフデザインについては、理数科でもやっているので、かなりやっているといった実感はある。 【小川蘇南高等学校長】 ・蘇南高校では信州学についてはふるさと探究学ということでやっており、学校の中核的な学びとなっている。 ・ライフデザインについては、本日この会議に出て反省したところであるが、家庭科や保健の教科にお願いしているところが多分にあり、地域の現状であるとか総合的に考える場というのが、ふるさと探究学と関係させながらやっていかなければいけないと気づかされた。 【阿部知事】 ・非常にいい発言をありがとう。 ・行政の立場からみると支援支援というが、個人の立場からすると大きなお世話みたいな感じもあるので、地域をあげての気持ちとか、家族のあり方とか、自分の人生設計をどうするかとかライフスタイルというのは、地域の将来を大きく左右する判断でもあるのだと、本当はそういう形で考えてもらうことも必要ではないか。そういう観点で実行してもらえればよい。 ・県の総合計画も、そういう総合的な観点でパッケージとして、地域では、これもこれも密着している一体の話ですよと認識してもらえるようにした方がよい。 ・人口減少はどこでも皆悩んでいる話で、出産適齢年齢の女性人口が日本では圧倒的に少なくなっているので、人口が減るのはある程度の前提条件として、社会で考えていく必要がある。 ・木曽地域においては、先程のデータを見て、県も相当力を入れてやっていかないといけない分野であると改めて感じた。 ・今、都会の生活を苦しく感じている人が山ほどいるが、、ポジティブな若者も山ほどいるので、木曽へ人を惹きつけるために何をするか、一緒に考えたいと思う。 ・木曽の街並みに若者を呼び込んでそこで商売させるとか、ポジティブに、町づくりと若者定着とセットで考えられればいいなあと思っている。 ・一緒に考えていきたいのでよろしくお願いしたい。 【神事局長】 ・次に進まさせていただく。 ・上松町の大屋町長お願いしたい。 【大屋上松町長】 ・私からは災害に強い町づくりについて話したい。 ・災害については、今や日本全国どこの自治体も非常に大きな課題となってい

	る。 ・昨年８月に非常に大きな土石流が発生したが、幸いなことに、住民がこの地区は危険な場所であると認識しており、あらかじめ避難していたため、人命に関わる被害はなかったが、家屋、水道施設など被害を受け、６日間にわたる断水などが発生した。 ・それ以前５月にも豪雨災害があり、その時も水道施設がやられた。道路、農業施設などやっと現状復旧できるというところへの更なる追い打ちであった。 ・地球温暖化による豪雨等の自然災害等が、我々にも非常に身近になってきていると感じている中で、木曽地域６町村共通の課題であると思うが、木曽川の、本支流の安全対策について話をしたい。 ・木曽川については、県内の他の河川のような河川整備計画がなく、下流域の岐阜県との調整が非常に難しいため、計画的に整備が進んでこなかったのが現状であると聞いている。 ・県の建設部で昨年度計画案がまとまり現在国と調整中とのこと。今までから状況が一歩進んだことに感謝したい。 ・木曽川は、出水量がある程度予想ができる木曽町から整備をしていくようだが、下流域の、上松町、大桑村、南木曽町はその整備計画に入っていないと聞いている。 ・上松町は、浸水想定区域に３つの地区が入っているが。私が就任以降、５回避難指示等言い方は変わってきているが、出している。毎年１回は出している。 ・住民は非常に協力的に避難等してくれるが、一方で「またか」という気持ちが、住民感情としてあるのも事実である。 ・今回整備計画に入っていいないわけだが、局所的にそうした場所があるということを理解いただきたい。建設部にお願いしたい。 ・木曽川は千曲川とは違って、急激に水が増えるため住民が避難する時間との戦いであると考えている。下流３町村はダムの影響を大きく受けていることもあるが、木曽川整備計画案をぜひとも調整していただき、早期に計画としていただきたい。 ・さらに強くお願いしたいのは、流域治水の考えから、木曽川は、長野県内は長野県、岐阜県内については岐阜県が関知してると、１つの川で何人も管理者がいるということは、国の洪水時の災害対応が的確に行われるようにその点を理解していただきたい。 【神事局長】 ・ありがとうございます。 ・時間がなくなってきたので、もうお一方、南木曽町の向井町長さん続けて発言お願いしたい。 【向井南木曽町長】 ・私からはインフラ整備の関係で道路について話をさせていただきたい。 ・１つ目、道路については、19 号が木曽の基幹道路であるが、北の方は雨量規

	制が解除される見通しがたってきたようだが、南の方はまだ雨量規制が残っており、防災工事等やっていただいているところである。 ・旧山口村から南木曽町にかけての地形が悪く対策をやっていただくにしても、抜本的にトンネルを抜くとかしないと、中京からの玄関口であり、これからリニアの効果を呼び込む、活かすということに大きな影響を与えると思うので、19 号の整備について、県の方でも対策をぜひお願いしたい。 ・２つ目、19 号でも、災害が多く発生し通行止めとなることがある。今でも工事をやっているところがある。19 号の災害時の右岸道路は大きな役割を果たしていると思う。右岸道路ができているところは、右岸道路のおかげで、迂回路として、また災害時の緊急用道路等として大きな効果を発揮した。 ・一方、右岸道路が整備されていない南部の方、南木曽町では、通行止めになり、どうしようもなくなってしまうといった状況があるため、今も鋭意やっていただいているが、引き続き右岸道路の整備をよろしくお願いしたい。 ・３つ目は、横断道路の関係である。361 号は伊那谷、木曽谷を結ぶのはもちろんだが、重要物流道路してだけでなく、今後、飯田と中津川にリニアの駅ができるため、そういったところを周遊する観光、交流で繋ぐ道として、そして、岐阜高山まで行くことを含め、361 号の整備をお願いしたい。 【神事局長】 ・ありがとうございます。 ・ただ今、大屋町長から河川整備、向井町長から道路整備について発言があった。他の町村長さん方何かあるか。 【向井南木曽町長】 ・木曽にはダムが９つあるが、治水機能があるのは味噌川ダムだけである。昨年もその味噌川ダムのおかげで大変効果があった。 ・今からダムは作れないので、国交省あたりに、ダムの再整備計画に入れていただき、かさ上げするなり、強化するなり、放流の仕組みを変えていただくなり、治水機能をダムへつけていただくことをぜひお願いできないかと思っている。 【神事局長】 ・ありがとうございます。 ・これも木曽地域での重要課題であるので、大畑県議さん何か、ご発言あるか。 【大畑県議】 ・右岸道路の件だが、県とすれば 30 年以上、相当の費用を今までかけてきているわけで、今課題になっているのは、南木曽町の川向から田立区間 5.3km だが、これがまだ未計画であるということである。できるだけ今年度中に計画案を示していただき、全長は 45km だが、供用開始が今 27.6km であるので、2022 年で、60%以上はクリアしているため、進捗率は高いと思う。 ・ただ、大桑でトンネルを２つ掘らなければならない。また、田立までの区間に関西電力があり、ここもトンネル工事があるので、相当時間もかかってし

	まうということで、できるだけ、2028 年のリニア中央新幹線に右岸道路が間に合うという想定でいるが、これはちょっと厳しいということである。 ・よって、我々とすれば木曽谷の観光、安心安全な生活の確保ということから言うと、田立までの間から中津川の新駅までの道路改革というのがものすごく重要になってくる。これは、青山市長も、長野県庁に来ていただき陳情を行っている。 ・将来的には木曽谷が、陸の孤島として孤立しないためにもダブルネットワーク効果の右岸道路を早く整備していただくということと、256 号、361 号の重要性も非常に高まっている。県の再評価のおかげで 361 号のトンネル延伸も、木曽地域にとってはありがたい判断であったのでできるだけそれも建設部にお願いして、早期に着工できる道筋を立てていただきたいと思っている。 ・次期計画なので、例えば 10 年後の木曽谷の道路を考えた時に、地方新幹線というものが 1 番有益になるのかなと思う。もう１つは、まつもと空港へのアクセスも、これはまだ絵には載っていないが、ここも木曽谷の存続のためには、重要なアクセス道路を作ってほしいということも要望して、これが地域計画に掲げられるか分からないが、その点も検討していただければと思う。 【神事局長】 ・ありがとうございました。 ・この関係は、建設事務所の大瀬木所長にお願いしたい。 【大瀬木建設事務所長】 ・まず、木曽川の河川整備計画だが、今年度中の認可を目指している。計画にない箇所についても、現場を確認させていただきながら、状況に応じた対応を検討していきたい。 ・また国と県の管理が混在する、いわゆる中抜け区間に木曽川がなっているが、一元管理については国へお願いする形で要望を行っている。 【阿部知事】 ・これは、東日本台風災害以来、各方面にずっと言ってるんで、私だけが言ってても動かないんで、千曲川も含めて、流域の市町村長の皆さんと一緒に行かなきゃいけない。問題は財務省、国交省は予算がつけばやってくれると思うが、お金の配当の話になってくるので、今まで県関係のところを国がやるので、人も金も増やさないとという話になり、多分そこが問題であると思う。ここはぜひ一緒に取り組ませていただきたいと思う。 ・千曲川流域の方は、一元管理は国にしてもらったが、国と新潟と長野県で一緒に考えるという話にしてもらったので、ちょっとだけ前進したが、今回の一元管理に関しては、まだまったくこういう状況なので、ぜひ皆さんと一緒に国に強く働きかけなければいけないと思っているのでよろしくお願いしたい。

	【大瀬木建設事務所長】 ・管内の治水ダムが味噌川しかなく他は利水ダムとなっている。流域治水の転換の中で、令和２年に利水ダムの、国、県、関係町村で事前放流のルールを決めている。昨年の大雨の時に利水放流を行い、桃山地籍で、70cm の利水効果があった。引き続き取組を進めていきたい。 ・道路の関係については、右岸道路の整備を進めているが、計画未策定の区間については、計画案をお示しできるようにしてまいりたい。 【神事局長】 ・以上でよろしいか。 【原木曽町長】 ・昨年度の災害は、河川の護岸が崩れたということで、そちらを優先しないとだったが、同時に農業施設も全部だめになってしまい、結果災害復旧をすぐにやりたいが、業者側の皆さんの体力が非常に落ちており、今回それが顕著にわかった。 ・地元の業者を使おうということでやってきたが、実際ふたを開けてみると、いい時の半分以下しか取り扱えないくらいの建設業の会社がほとんどになっている。 ・災害の時に即復興ができないという実態もある。強靭化も含め、道路や河川の予算を増やしてきていただいているので、非常にありがたい傾向ではあるが、県の方も今まで以上にご配慮いただければと思う。 【阿部知事】 ・道路、河川、建設業については重要な話だと思っている。 ・流域治水で取り組もうという話は、雨水貯留施設を作ってもらうことも大事だが、流域の皆さんも一緒に、治水のあり方を考えるということが重要だと思っている。 ・災害の中で１番感心しているのは、信州新町の住民の人は非常に治水対策に熱心に取り組んでいる。東京電力の利水が大きく影響していると思うが、長野市、県もどちらかというと、地域住民の皆さんに引っ張られて治水対策をやっているという感じ。この間協定を結んだのは、ダムの事前放流の考え方を、国全体の考え方を１歩進めていること。電力会社の理解がなければできないことだが、より安全なわけで、より容量を確保していただける形となった。 ・どうしても河川の土砂が堆積してくるので、地域の皆さんと話し合いをする中で、一定程度のルールを作っていきましょうという話。 ・行政としてはイヤな話だが、私はいいことだと思っている。流域住民の人達が、自分の住んでいる川がどれぐらいの流量になったらどれくらいの状況になるか自分たちで学んだ上で、我々行政と一緒になって考えていただいているという、非常にいい一例だと思う。木曽地域の皆さんなら一緒にやれると思うので、ぜひ考えていただきたい。 ・右岸道路については、重要性は重々承知している。早く進めなければいけな

	いと思っている。361号も全く同様である。木曽地域は19号１本だけで繋がっているので、これは改善できるように全力を挙げて取り組んでまいりたい。 ・それと先程の建設業の話は根本的なところは繋がっていて、先日国会議員の人たちとも話したが、今は昔と違い、道路整備〇年計画などがない。国も県も計画的にやっているが、来年度予算がどうなるかわからない。すると、この道路はあと３年で仕上げます等誰も言えない状況である。それは困ると。この道路は何年後に開通すると分かればそれで企業に人が集まってくるので、全ての地域に共通していると思うので、いつまでにいくら投入すると分かれば、自治体も助かるし、建設業界も来年のことを心配しなくても一定程度分かるので、国の仕組みを変えなきゃいけない。これは県と町村会の皆さん全体と、一緒に言っていく話であると思う。意見は全く同じ思いであるし、いつまでにしますと言いたいが、私も言えないので、ぜひ一緒に取り組ませていただきたい。よろしくお願いしたい。 【神事局長】 ・次に進ませていただく。 ・木祖村の唐澤村長さん、発言お願いしたい。 【唐澤木祖村長】 ・人口減少の件だが、５年間で2,900人の人がいなくなっている。木曽では１村どこかへ行ってしまった。人口減少だけは何とか食い止めないと、木曽へは１年に１回来ればいい、住む所ではなくなっている。そういう場所になってしまい、非常に危惧している。 ・戦略を立てて、地場産業を守り、子育てをしっかりやる、結婚支援もしっかりやる、年寄りには健康寿命を延ばしてもらい少しでも長生きしてもらう、人口減少率を緩和しようとやってきたわけだが、なかなかうまくいかないというのが現実である。 ・これからの財政支援や人的支援などぜひお願いしたい。 ・木曽川の水の縁で、名古屋市を始め下流域との交流が30年近く続いている。地域振興の１つだと思っているが、コロナにより２年間行き来が出来なくなってしまった。 ・今年は30周年記念をやる予定で、下流域から人が来る。また先日もダムの周りでロードレースをして沢山の人に参加いただいた。コロナの感染対策をした上で、人を呼ぶつもりだが、コロナが早く納まらないと民宿や、木曽の業者がつぶれてしまう。 ・木曽の広域的な地域構想について今まで通りご支援いただきたい。 【神事局長】 ・ありがとうございます。 ・引き続き、王滝村の越原村長さんにお願いしたい。 【越原王滝村長】

・私からは観光振興の観点からお話したい。
・木曽は、自然、歴史、食文化等、ある意味ゼロカーボン的な観光地かと思っている。一方で、コロナや、災害、道路等アクセス、後継者がいないなどいろいろな問題も抱えている。
・少しずつ他の観光地は人が増えてきているものの、木曽は伸び悩んでいる。
・木曽を知らない人も結構いるようである。木曽という知名度を、県としてもぜひピーアールしていただきたい。
・今年の連休中は、キャンプ場なとは今まで愛知県を中心に東海方面８割だったのが、今年は、東海５割、近畿他全国的に来てもらった。しかし、まだ、愛知県へ行っても、「木曽ってどこ？」という人もいる。
・「信州ナビは」すごく便利なシステムだと思っているので、まずは「信州ナビ」を知ってもらうことをお願いしたい。そして長野県をピーアールしていただきたい。

【神事局長】
・ありがとうございます。
・それでは唐澤村長さんからは連携基盤の話、越原村長さんからは観光の関係で「信州ナビ」の話をいただいたが、何か関連してご発言あるか。
・連携基盤については、企画振興課に広域連携推進幹が配置されているので、広域連合とも連携して、引き続き取り組みを進めさせていただきたい。
・「信州ナビ」のピーアールについては商工観光課から。

【安藤商工観光課長】
・「信州ナビ」についてはスマホ用の交通ナビで、ルートがよく分かるようにできているものである。広域では今「木曽路ドットコム」というものを、スマホ対応で一緒に編集しているので、それと合わせる形であらゆる機会を通じてピーアールしていきたい。

【阿部知事】
・私もぜひ一緒に木曽地域の将来について考えていきたいと思うが、町村長の皆さんは木曽地域を知りすぎているほど知っているので、視点を定めて皆さんと一緒に考えると、実はいろいろなことができてしまうのではないかと感じている。
・今までの産業振興や人口増加の対応策は企業誘致であり、引き続きその取組も必要だと思っている。
・企業誘致だけをやるのでは今後の社会経済情勢からして十分ではない。もっと人の誘致が必要となってくる。町村長の皆さんは地元にどんな人がいると分かっているので、そういう人の中で、人を惹きつけられそうな人をリストアップして、その人はどんな人を呼べそうかと考える方がいいのではないか。
・新しい生き方、新しい働き方をやっている人たちに、結構若い人たちは魅力を感じているようである。
・唐澤村長がさっき言われたように、知恵が必要であると。少し試行錯誤しな

	ければいけないところもあるが、私が総合計画を作るにあたって、ありきたりなことばかりやっててもつまらないから違うことを考えてと言っているが、どう知恵を出すかというベースの仕掛けのところをまずしっかり考えて、先を見ながら答えを出すことも大事なのではないかと思っている。 ・起業や人への投資の仕方も今までとは変えていかなくてはいけなくて、三菱総研の人と話をしたが、三菱総研では通勤の交通費を出さなくなったらしい。テレワークができるので、会社へは出てこなくてよいということで通勤費は出さなくなったら、長野県へ来た人もいたらしい。本当はそういう人たちに働きかけて、木曽地域はおもしろいよ、こんなところに住めるよとアピールすることが大事ではないか。企業は副業を解禁してきている。東京の企業で働いているけれど、１ケ月に何日間はこちらの木曽で働けると。働き方とか生き方は変わってきているので、今までと同じような尺度で企業を誘致してもダメであるので、多様な人との関係性をどう作るかということが、重要になってくるのだろうと思う。 ・木曽地域は十分すぎるほど魅力のある地域だと思っている。それをブランディング化できていない。若い世代に伝えるブランディングができていないと思うので、そこのところをしっかりやっていくことが重要であると思う。 ・昨日の若い人たちとの意見交換でも、田舎の中でもちょっとおしゃれなところがいいなどと言っていた。先程の森林林業関係者との意見交換でも、林業をこれからはカッコイイ職業にという話もあったので、そういう意味では、地域全体をオシャレとかカッコイイとかする必要はないが、オシャレとかカッコイイところがあるよというものを検討して考えながら、この地域のブランディングをしっかりやっていくと。ここは県もしっかり考えてやっていきたい。 【神事局長】 ・それでは予定の時間となったので、意見交換は以上とさせていただく。 ・１点企画振興部から連絡事項があるので清水部長からお願いしたい。 〔連絡事項〕 ○マイナンバーカードについて（清水企画振興部長）（市町村課長） 【神事局長】 ・最後に阿部知事からお礼を申し上げる。 【阿部知事】 ・どうもありがとうございました。時間をオーバーしてしまったが、お礼を申し上げる。 ・コロナの中で人の動きが止まって、観光関係者はじめ多くの皆さんが影響を受けている。観光については、県としても感染状況が広がるなかでも、県民の皆さんの観光だけはなんとか厳しい時でも割引をさせていただくようにした。 ・感染警戒レベルは、緩和する方向で考えている。御開帳も御柱もかなり制約

	を設けていただいたが開催していただき、お客様を入れてもらっている状況である。県としては、観光誘客は積極的にやっている。 ・私も御柱祭に行かせていただいた。もちろん御開帳も行った。そういう形で行動させていただいている。コロナに負けない観光施策をやっていきたい。 ・長野県は、マイナンバーカード取得率は全国で下の方だが、ワクチン接種率は上位である。その中でもトップなのが木曽地域であるので、全国でワクチン接種率が最も進んでいる地域である。自信、誇りを持っていただきたい。 ・引き続きコロナ対策を皆さんと一緒にやっていきたい。地域が元気になるようにやっていくので、よろしくお願いしたい。 ・本日はありがとうございました。 〔閉会〕（兵藤副局長）